

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ほしのご中央		
○保護者評価実施期間	2024年11月1日		～ 2024年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	2024年12月1日		～ 2024年12月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々の様子についての共有	入退室時に保護者とコミュニケーションをとる時間を設け、児童の様子についてのやり取りを行っている。また、HUG(アプリ)にてその日の療育の様子を保護者が確認し、コメントできるシステムを取り入れている。	保護者がより発信したり、コメントを行いやすいような関わりを心がける(例:何か気になる点はありましたか?ご家庭でも成長を感じた場面はありましたか?など職員から尋ねる)。
2	保護者・児童のニーズに即した個別支援計画の策定	保護者と面談を行いながら、事業所、家庭、学校での様子を振り返り個別支援計画の見直しを行っている。また、各職員の意見も取り入れながら多角的な視点で5領域に即した目標を決定している。	移行支援、家族支援については今年度から導入された項目であり、職員としても模索している段階にある。事業所として実践できる内容をより検討し、支援の充実を図る。
3	多岐にわたる活動実施	児童がさまざまな体験を得られるよう、各職員の資格や経験を活かしながら活動を立案・実践している。ただ実践するだけでなく活動の中に目的をもたせることで、児童の心身の状況についてアセスメントしたり、成長の機会に結び付けている。	職員同士で療育の内容について振り返ったり意見を交換する場を設け、より児童の様子に応じた活動提供を行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童の通所意欲の向上	児童にとって明確な目標・意欲に繋がることが見つかっていない。また、入室後は笑顔で活動に参加しているものの、時間の経過とともに俯いたり寝転んだり、活動への意欲低減がうかがえる。	一人ひとりの児童とより積極的にコミュニケーションを図り、信頼関係を築いていく。児童の成長に向けた活動を行う方針は保ちつつ、興味・関心に合わせた療育内容を展開し、児童の体力・意欲の向上に繋げる。 1日の流れを見直し、メリハリを持って活動を楽しめる環境を作る。
2	事故・感染症・災害対応に関する周知	マニュアルの策定、研修・訓練など実践しているが、保護者の方への周知ができていなかった。	見学や契約の際に、策定されているマニュアルを伝える。事業所として「いつ」「どのように」研修や訓練を行っているか具体的に伝える。
3	児童の安全確保	児童によっては言語での発信が難しく、行動で感情を表現し、結果他害に発展する場面がうかがえている。送迎や入退室の対応タイミングなど、状況によって職員が児童から視点が逸らした際は未然に防げず事後的な対応となってしまうことがある。	職員の立ち位置が適切かどうか、職員同士で声を掛け合い児童の安全を確保する。入退室の対応については安全を確保できてから行う、児童の精神状況に応じてお互いの距離を物理的にとり指導員が間に入るなど、他害を防ぐ為に実現可能なことを1つ1つ実践していく。